

古今著聞集私記

大學堂
古典叢刊

愛媛
大学
古典
叢刊
21

古今著聞集私記

第二期 刊行書目（太字既刊）

- 15 拾遺和歌集 上 伝一条為忠・世尊寺行忠筆本
 16 拾遺和歌集 下 伝一条為忠・世尊寺行忠筆本
 17 大海集 上
 18 大海集 下
 19 大海集 翻刻編 上
 20 大海集 翻刻編 下
 21 古今著聞集私記
 22 正統古事談・十訓抄私記
 23 景清 丹緑本
 24 源氏物語 冷泉為相他筆鎌倉期古写本

その他

古今著聞集私記

昭和四十九年十月一日発行

編者 小泉道

刊行 愛媛大学 法文学部 国語国文学研究室
 大学 古典叢刊刊行会

松山市文京町

印刷所 有限会社 青葉図書印刷部

松山市小栗六丁目三十三

発行所 790 松山市小栗六丁目三十三
 青葉図書

電話（〇八九九）四三一一六五
 振替・徳島 六二一〇

目次

序		五
卷第一	神祇（一〇三三）	六
卷第二	釈教（三四七二）	二一
卷第三	政道忠臣・公事（七三〇一〇五）	三八
卷第四	文学（一〇六〇一四一）	四五
卷第五	和歌（一四二〇二二九）	五九
卷第六	管絃歌舞（二三〇〇二八四）	八二
卷第七	能書・術道（二八五〇三〇〇）	九六
卷第八	孝行恩愛・好色（三〇一〇三三二）	一〇二
卷第九	武勇・弓箭（三三三〇三五二）	一四
卷第十	馬芸・相撲強力（三五三〇三八二）	二一
卷第十一	画図・蹴鞠（三八三〇四一六）	三三
卷第十二	博奕・倫盜（四一七〇四四六）	五七

卷第十三	祝言・哀傷（四四七～四七二）	一七五
卷第十四	遊覧（四七三～四七九）	一八四
卷第十五	宿執・鬭爭（四八〇～五〇六）	一八六
卷第十六	興言利口（五〇七～五七八）	一九六
卷第十七	怪異・變化（五七九～六一一）	二二一
卷第十八	飲食（六一二～六四五）	二三二
卷第十九	草木（六四六～六七一）	二三九
卷第二十	魚虫禽獸（六七二～七二六）	二四七
跋		二六六
解 說		二七一

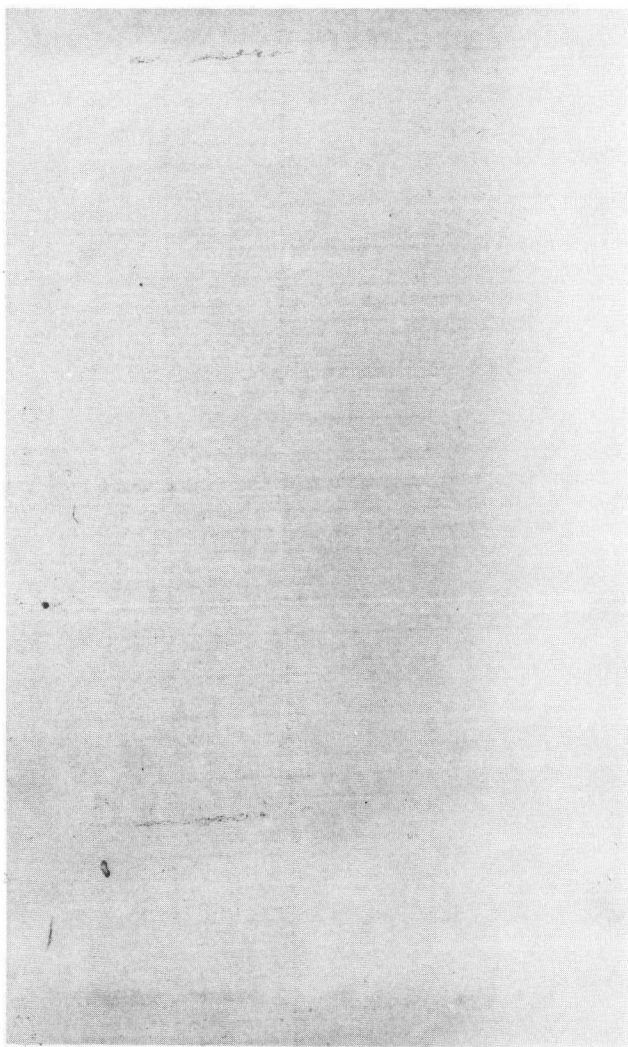
○ 本書は、愛媛県大洲市立図書館矢野玄道文庫に蔵する矢野玄道著「古今著聞集私記」（上下二冊本）を複製したものである。

○ 研究者の検索の便をはかつて、本文の上欄外に、日本古典文学大系「古今著聞集」による説話番号を付した。それを整理したのが右目次である。

古今著聞集私記

下

上表紙

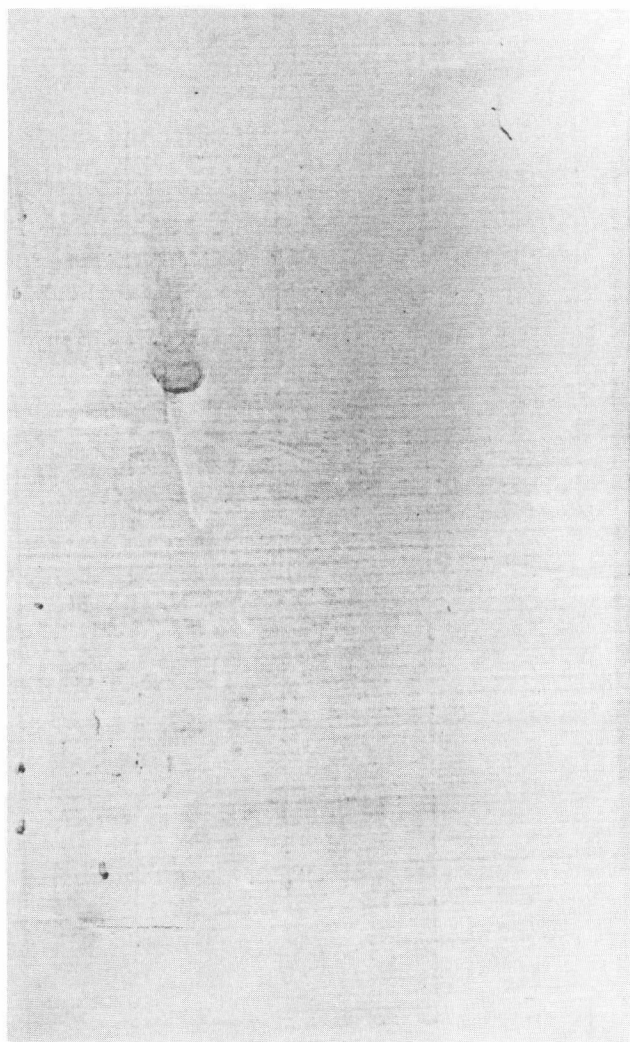


上見返

古今著聞集私記

上

上
扉



上
扉
裏

古今著聞集私記

○本朝書籍目錄曰。著聞集廿卷。橘季成。看聞御記云。永享五年。二月廿八日。自内裏。雙子御用之由。被仰下之間。古今著聞集十一帖入見參。敕覽已後。可被返下之由申入。今六年。九月十五日。晴。按察有狀。古今著聞集可申出之由。飛鳥井申。自空町殿被召云。被出自錄之間。五帖進之。目六之内。七八八欠。自餘皆進畢。又曰。十月廿五日。古今著聞集。飛鳥井。又申出之間。松行石之若位。六帖進畢。是日乙一部也。又廿卷。日本。此廿卷。夜。無之也。

○古今著聞集序。○巧語。案。指今昔物語。宇治拾遺物語。○清談。按。指江談。今所傳並抄本已。○易和。以上言和歌。陸

按恐言。○可寫。以上言画圖。○居多。連讀。○庶事。句。○
建長六年。後深草天皇御宇之八年也。○應鐘。十月。

○卷第一

四紙神祇第一。斯書。以神祇置卷首。頗為得體。○此神五代

止。古本作也。按此為俗稱。亦久。一如本居翁所論辨。○或

古本无。五紙廿二社。二一作一。按諸社本懷諸神記。

定為廿二社。訪於後朱雀天皇長曆三年八月十八日。加日古

社於官幣社之時云。扶桑略記云。長久五年八月廿七日丙辰。

有廿二社奉幣事。稱旱疫也。今度加日古社。○人。古本

百連抄。永保元年七月文。奉行奉幣之次。以日古社。永保元年。社議以奉。作鎮護。○桓武天皇云。在王。一元王。按宇佐錄起。全託宜

集帝王編年記等、係之欽明天皇御寓事、皆因浮屠氏之虛誕、
 不必論可也。○内侍所、おろけレ一作セ。○此事何の御時
 の事より。按禁祕御抄。江家次第、年中行事祕抄、以為垂仁
 天皇御世事。河海抄云、崇神天皇、内侍所全殿を恐申され、
 温明殿を七間に作て崇申されし事を、みつゝ四葉に殿作
 せりとよめふなり。○かの殿より。願属異聞、謂理其可然。
 ○天德、内裏焼亡云々。四年九月廿四日夜也。按見禁祕御
 抄。江家次第、年中行事祕抄、及撰集抄、愚管抄、源平盛衰記、文
 顯有、具全、因神典翼、新紀私記可見、六紙されども云々。神
 皇正統記亦全。考據確乎不悞。然如神皇例之説、亦似匠抹殺。

○御記云、有鏡。一有一字、謹案全文、見釋日本紀、扶桑略
 記、瀝鰭抄等。○驚或、蓋感誤。○寛弘の焼亡。二年十一月
 廿五日也。見禁秘御抄、御堂闌白記、權記、年中行手秘抄。○長
 久焼亡。九月十日也。見中右記、春記、百練抄、神皇正統記等。
 ○いま、一有え、○世のくぐり、恐脱、ゆゑ二字、○今行末
 いりふらむ。无限感慨、苟有存心皇室者、何世不然。全此志
 者、千載旦暮而遇之矣。○延長八年、花鳥餘情云、大般若經
 御讀經、焼損邪氣足之由、稻荷明神告負崇法師給事、見延喜
 八年李部王記文。又曰、吏部王記曰、延喜八年、清涼殿、霹靂之
 後、負崇法師、候清涼殿之時、聞大人、是邪神所為也。又見元亨

負崇死天慶元年六月廿二日五鼓七通高名神山神社下奉各度者一人之狀、負崇律師神中有告文

紀事本末卷七十六
六月十五日
上野國都賀郡
大寺左京人三善氏
或此人聲一作とと

釈書負崇傳。稱其為妖魅所託。圓元論已。○負崇 扶桑略記。

天慶六年。少僧都負宗上表云。去昌泰二年。謝東寺廿僧。依有

本願。龍金峰山之辺。又云。延長五年。頻蒙恩詔。俄候禁闈云。又

曰。京言宗東大寺左京人。三善氏。或此人。○聲 一作とと

三井寺鎮守。詳就古今妖魅考可見。○明尊 按園城寺長

史次第。号志賀大僧正。大内記小野春時子。道風孫也。○う

舟 出續古今集。清岩茶話。○ふ 一作の。○慈覺

圓仁。下野國都賀郡人。士生氏。崇神天皇苗裔也。八紙 住吉の

神也。按源平盛衰記。謂開發源大夫之屬。○住吉 四所云

四所則是。以下則係淳曆氏之妄誕。全篇多此類。不勝具

郭佐名中集 宣位

論。○柴 一作桑。○又津守國基云、案見袋草紙。長明文
 字鎖、諸神記。王代記、類聚既驗抄、神明鏡、和漢合選、玉津島縁
 起、實隆公記亦載之。今案名蹟方可合見。○北野宰相殿 按
 輔正卿、在經朝臣男。○國廟院の御侍讀云、菅儒侍讀年
 譜云、輔正、花山院。安和二年八月十三日立坊。貞元二年、三月、
 奉授御注左經。于時從五位上。守左大弁兼行大學頭、東宮學
 士。○堂舍ハハ一作教、○御託宜云。按出天滿宮御託
 宣記。○事に 一作又、九紙寬弘六年十二月 日本紀略、
 廿四日、甲辰、前參議、正三位、式部大輔、菅原朝臣輔正薨。年八
 十五。○万壽三年 廿二社註式、諸神記云、壽永三年、三月二

十七日。贈正一位。按此万壽益壽永壽。古本作壽永。○僧。贈
誤。○一条院御時。上總守時重。

^作紙

又の上

作。○長曆二年

勝隆云。

後朱雀天皇

御世。○明尊。詳見百練抄。扶桑畧記。門徒確執起。先事釋書

等。十一教圖。

天台座主記。伊勢守。藤原孝忠男。号東從房法

印。○同宗。

一作意。○同年中比。

大中臣佐國。

詳見神宮雜

事記。小石記。百練抄。四月廿一日。

一作日。

伊勢大神宮有託宣事。祭

主佐國傳任勲罪名。公年遷宮間濫行事。六月廿六日。本全

前祭主佐國配。

伊豆回。

依神事違例也。去六日。令詣卿定申

之。以兼興

補祭主畢。扶桑畧記曰。四月六日。丙寅。有伊勢大神

八月七日、祭主宣
 眞靈仁旨張字止
 祭主是之依託宣
 也。

託宣。世秘之。故人以元知。昨日、祭主、大中臣佐國、配流伊豆國、
 是則依有神事違例之託宣、令勤罪名、解却見任、所被行也。六
 月廿三日、神祇大輔、大中臣兼興、為祭主、解却佐國之替也。○
 遷宮の間、古亦有不法の事有けり故と云々其間、十
 四字、**十二**行くと、昔有皆字、○十七日、亦作也。百練抄
 曰、十九日、召返前祭主佐國、依託宣也。畧記、**四**為七月十九日、
 曰、召返流人前祭主佐國、依託宣也。八月七日、祭主、大中臣兼
 仁、任若狹守、依託宣、傳祭主也。○延久二年、後三條天皇御
 世、○上総同一比宮、神名式曰、殖生郡、玉前神社、名神大、貞
 觀十年、元慶元年紀、作玉崎神、永萬記、玉崎社、又見史官記、天